船ヶ谷遺跡（ふねがたにいせき）５次調査 現地説明会資料

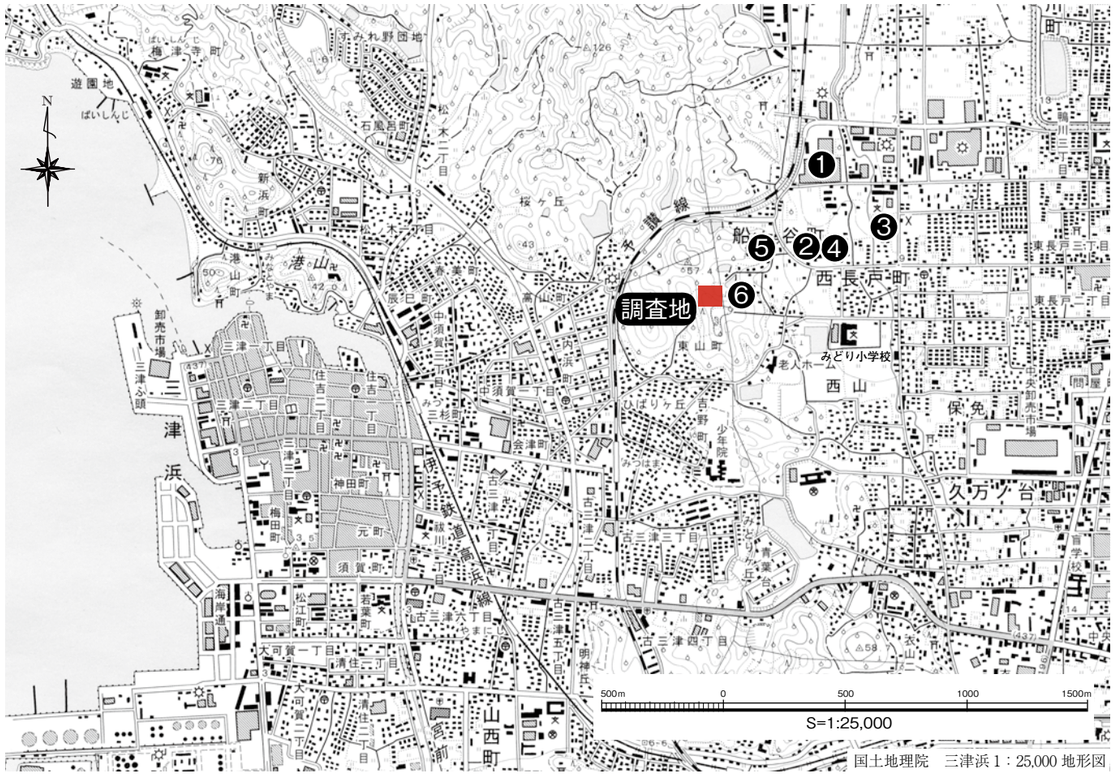
平成 27 年２月 22 日

調　査　地　　松山市船ヶ谷町乙 25 番２の一部ほか
調 査 期 間　　平成 26 年 11 月 10 日～平成 27 年３月中旬（予定）
調 査 面 積　　約 430㎡
調 査 主 体　　（公財）松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター

1、調査の概要

（1）試掘調査

調査地は、周知の遺跡である東山古墳群内にあります。試掘調査は、平成 26 年８月４日～８月 13 日の間に行いました。試掘調査の結果、２地点で須恵器や埴輪などが出土し古墳の存在が想定されました。



1　船ヶ谷遺跡１次調査　　2　船ヶ谷遺跡２次調査　　3　船ヶ谷遺跡３次調査
4　船ヶ谷遺跡４次調査　　5　船ヶ谷向山古墳　　6　船ヶ谷三ツ石１号墳、２号墳

図１　調査地と周辺の遺跡

（2）本格調査

本格調査は、須恵器や埴輪などが出土した２地点について北側をＡ区、南側をＢ区として調査をおこないました。Ａ区では古墳１基（船ケ谷三ツ石３号墳）のほか、土坑などが見つかりました。Ｂ区では古墳１基（船ケ谷三ツ石４号墳）が見つかっています。三ツ石（みつし）３号墳、４号墳についてこれまでの調査で分かった事を裏面で説明します。

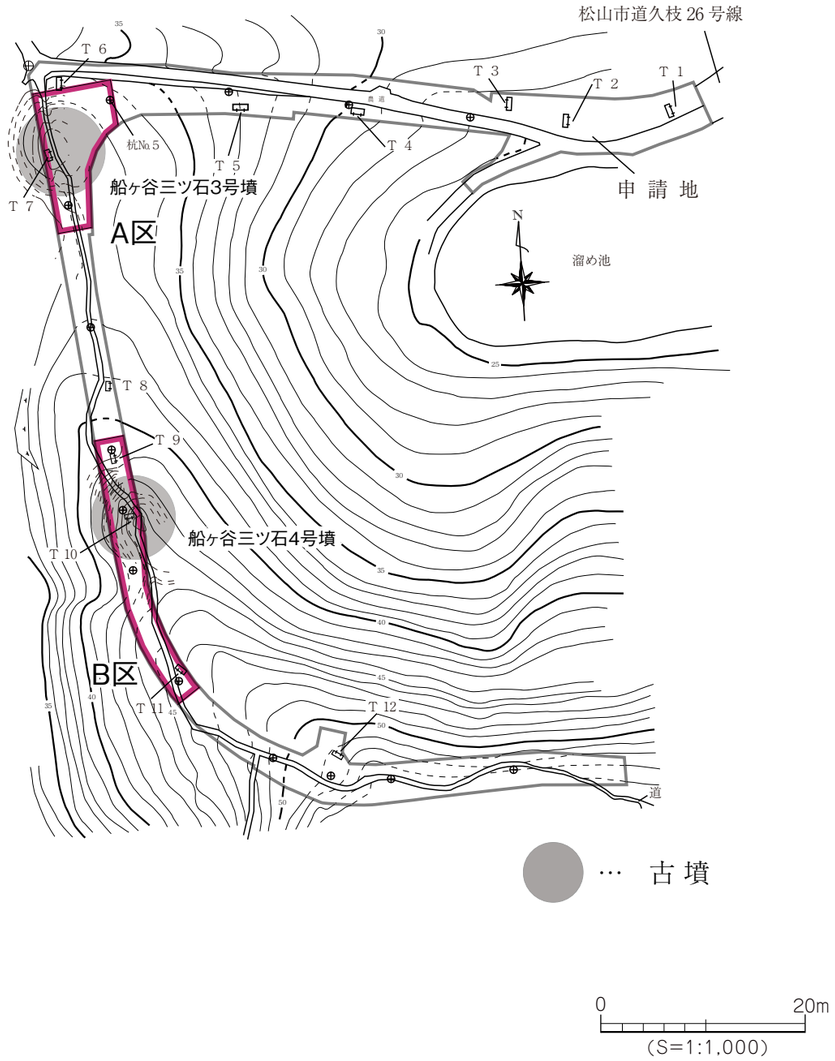


図２　調査区位置図

①船ヶ谷三ツ石３号墳

・古墳を覆っていた盛り土（墳丘）は人為的な地形改変によってほとんど消失しています。
・主体部（埋葬施設）はＡ主体部、Ｂ主体部のふたつがあります。
・Ａ主体部から８ｍの南側に幅約 2.4 ｍ、深さ約 0.6 ｍの周溝が巡ります。

（Ａ主体部について）

・主体部は西に開口する片袖の横穴式石室です。
・羨道部（入口）から玄室へは段を降りる構造となっています。
・玄室床面に玉石が敷かれています。
・玄室規模は長さ約 3.6 ｍ、幅 1.4 ～ 1.5 ｍ、室高 0.2 ～ 1.3 ｍを測ります。
・遺物は玄室内で須恵器、鉄製品が出土しています。特に入口側に集中します。
・鉄製品には大刀、鉄鏃、鉇、轡があります。
・耳環、玉類などの装飾品は出土していません。
・時期は出土遺物より６世紀前半～中頃と考えられます。

（Ｂ主体部について）

・Ａ主体部の南東側約５ｍに位置します。
・人為的な地形改変により玄室床面の一部しか残っていません。
・検出規模は長さ（南北）2.4 ｍ、幅（東西）0.5 ～ 1.0 ｍを測ります。
・玄室床面に扁平な割り石と玉石が敷かれています。

写真１　大刀が出土した様子　（南西より）

写真２　須恵器が出土した様子　（東より）

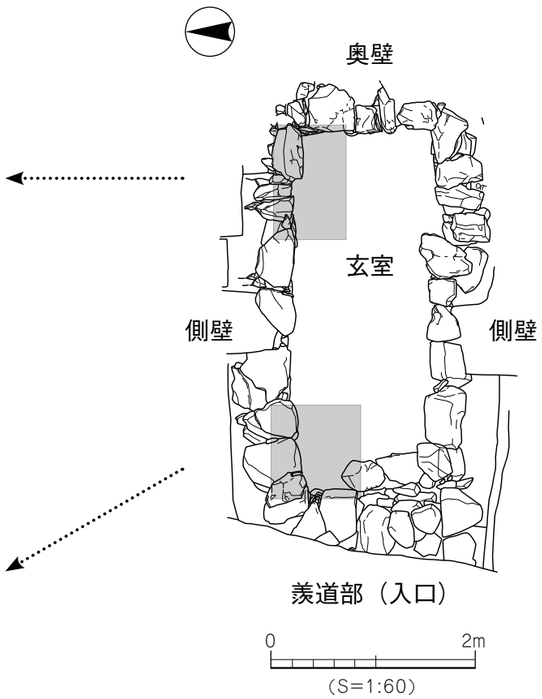


図３　３号墳 Ａ主体部測量図

・遺物は大刀の破片１点、須恵器片、耳環１点が出土しています。
・時期はＡ主体部同じ頃と考えられますが前後関係は不明です。

②船ヶ谷三ツ石４号墳

・主体部は西に開口する両袖式の横穴式石室です。
・玄室規模は長さ約 4.8 ｍ、幅 1.6 ～ 2.0 ｍ、室高 0.5 ～ 1.6 ｍを測ります。
・遺物は玄室内で須恵器、土師器のほか鉄鏃、轡などの鉄製品や耳環、切子玉、管玉、棗玉（埋もれ木玉）などの装飾品が出土しています。
・墳丘上に埴輪列が見つかっています。
・時期は出土遺物より６世紀前半～中頃と考えられます。

写真３　石室に天井石などが落ちている様子　（西より）

写真４　耳環・管玉が出土した様子　（西より）

写真５　須恵器や土師器が出土した様子　（南より）

2、わかったこと

今回の調査では、古墳時代後期の古墳２基（船ヶ谷三ツ石３・４号墳）などを発見しました。これらの古墳の石室内からは、６世紀前半～中頃の土器や鉄製品・装飾品などが多数出土しました。

本調査地北東側の丘陵上には、５世紀における有力者の墓と推定される船ヶ谷向山古墳（前方後円墳）が発見されているほか、南東側の丘陵上には５世紀後半～６世紀初頭と推定される船ヶ谷三ツ石１号墳が発見されています。これらのことから、久枝地区の５～６世紀における古墳の分布や構造などを解明する手がかりを得ることができました。